

P7 韓国盤亀台岩刻画と日本海沿岸遺跡出土鯨類遺体の比較

—マッコウクジラを中心に—

○平口哲夫（金沢医科大人文）・松井 章（奈文研，京都大大学院人間・環境学研究科 併任）

Comparing a rock engraving at Ban-gu Dae in Korea with cetacean remains found at the archaeological sites on the coast of the Sea of Japan, for the main discussion on sperm whales.

Tetsuo Hiraguchi (Humanities, Kanazawa Medical University) and Akira Matsui (Nara National Cultural Properties Research Institute / Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto Univ.)

【経緯】 大型鯨類の捕獲の起源を研究するうえで韓国盤亀台の岩刻画はきわめて重要であるが、その年代論争は一挙に解決がつくわけではないので、当面、日本海沿岸の遺跡から出土している鯨類遺体や伴出遺物を地道に検討していくことが望ましい。1998年10月1日、山口県油谷湾にマッコウクジラが迷入したという事実は、盤亀台鯨類画にマッコウクジラらしきものが描かれていることについて、「マッコウクジラは韓国近海に来遊することは稀であるが、当地の古代人の目に触れる機会が少なくともあり、その独特の姿が目に焼き付いたのではないだろうか」（平口，1991）と述べたことのある当人にとっても願ったり適ったりであった。しかも、2000年4月6日、静岡県大須賀町の海岸にマッコウクジラが生きた状態で漂着するという出来事があり、これに関連した発表をセト研第11回大会において行いたいという荻野みちる氏による申し出も大会事務局に寄せられた。そこで、昨年松井の紹介で本会に入会された江上幹幸氏にラマレラ村のマッコウクジラ漁に関連した特別講演をお願いできないかと、急きょ問い合わせたところ、幸いにも小島曠太郎氏との共同で講演を引き受けてくださることになった。以上の経緯をふまえ、マッコウクジラ問題に考古学の分野からも迫ることにし、まず日本全国の遺跡からどの程度マッコウクジラ遺体が出土しているかを調べてみた。

【データベースによる検索】 松井らによって作成された貝塚データベース Ver.1（貝塚に限らず他の動物遺体出土遺跡も収録）から鯨類関係のデータを検索したところ、231遺跡のデータが抽出された。これをデータベースソフト桐 Ver.8に書き出し、哺乳動物の項目においてマッコウクジラをキーワードに絞り込んだところ、抽出されたのは宮城県石巻市南境貝塚（北境久保遺跡）ただ一つであった。このデータベースは10年前に作成されたものであり、本年4月に一応完成した最新バージョンでの検索は今回の発表には間に合わなかったが、それにしてもマッコウクジラ遺体出土遺跡がただ1例というのはあまりにも少なすぎる。次に、山崎京美氏らによって作成された縄文時代動物遺存体データベース（印字情報は1998年に刊行、ソフトはファイルメーカー Pro.を使用、インターネットによる公開を準備中）で調べてみたところ、岩手県宮古市鉾ヶ崎館山貝塚（縄文時代早期～後期）、宮城県石巻市南境貝塚（第4次調査、縄文時代早期末～晚期前葉）、東京都新島村渡浮根遺跡（縄文時代後期・晚期）、以上3遺跡が抽出された。いずれも太平洋沿岸の遺跡である。

【今後の見通し】 既存の考古学データベースでマッコウクジラ関係のデータが乏しいのは、そもそも大型鯨類については、当時の人々が骨にいたるまで徹底的に分配し、利用することが多かったため、種同定ができるような形で遺存することが稀であり、多くが鯨目かその亜目程度のレベルでしか鑑定されてこなかったからではないかと考えられる。今後、大型鯨類についても動物考古学的な同定作業を進めていく必要がある。マッコウクジラの場合、大きな歯が加工され、製品として利用された可能性が高いことから、遺跡出土の歯牙製品に十分注意を払っていきたい。